

小委員会活動報告

地震防災技術の伝承・教育に関する検討小委員会

地震工学委員会 2024年度 研究会

活動の経緯

- 地形に残された地震痕跡データの集約と活用に関する研究小委員会
活動期間：2015年4月～2019年3月
委員長：小長井一男
委員数：13名
活動内容：地盤に残る地震痕跡のデータの収集とデジタル化
土木映像配信サイトへのアップロード
- 地盤と地形に刻まれた地震・災害痕跡データの公開促進小委員会
活動期間：2019年4月～2022年9月
委員長：池田 隆明
委員数：18名
活動内容：過去の地盤災害に関する災害データの調査と収集
地盤は悪夢を知っていた－地盤に残る地震痕跡－の出版
書籍に関する講習会の開催

1

古い報告にも瓜二つの地すべり

- 2018年北海道胆振東部地震

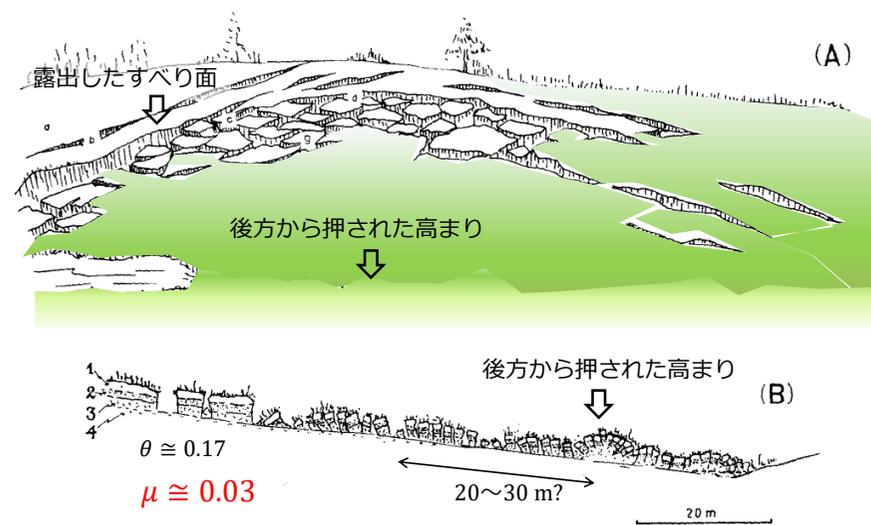


Kazuo KONAGAI, Alessandra Mayumi NAKATA, Runouts of landslide masses detached in the 2018 Hokkaido Eastern Iburi Earthquake, *JSCE Journal of Disaster FactSheets*, FS2019-E-0001, 1-6, 2019.

2

古い報告にも瓜二つの地すべり

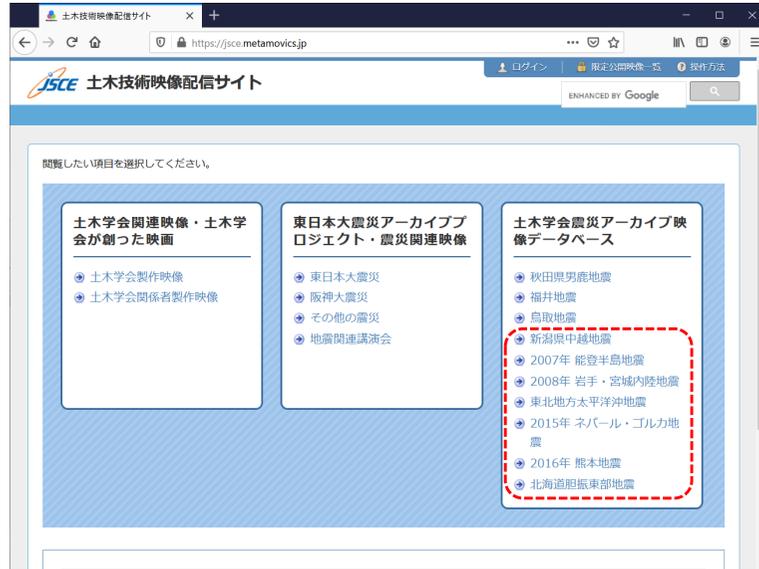
- 1968年十勝沖地震



(東北大学理学部地質学古生物学教室研究邦文報告45ページ)

3

土木技術映像委員会と連携し、映像データのデジタル化・共有



- ・中公新書サイズ（縦書き）
- ・総ページ数：210ページ
- ・10章構成
 - 一般の方も読めるような内容（歴史・文学的要素を加える）
- ・発行
 - 第1版第1刷：令和3年07月31日
 - 第2刷：令和3年11月30日
 - 第3刷：令和5年11月
- ・定価
 - 935円（税込）
 - 土木学会会員特価 850円（税・送料込）
 - <https://committees.sce.or.jp/eec228/node/8>

- まえがき
- 凡例
- 第一章 地震災害痕跡は多くを物語る
 - 第二章 二〇一八年北海道胆振東部地震
 - 第三章 二〇一六年熊本地震
 - 第四章 二〇一一年東日本大震災（その一）
 - 第五章 二〇一一年東日本大震災（その二）
 - 第六章 二〇〇七年中越沖地震
 - 第七章 二〇〇四年中越地震
 - 第八章 二〇〇〇年鳥取県西部地震
 - 第九章 一九四八年福井地震
 - 第十章 一九四七年善光寺地震、一九二三年関東大震災
- あとがき
- 付録（用語集、本書記載の地震の年表）
- 土石流の脅威 —



図1-1 荻川師宣 画、『小倉百人一首』清原元輔
 版元：木田屋、延宝8年（1690年）
 国立国会図書館デジタルコレクション¹¹

貞観地震・津波の記憶

「涙りきな かたみに袖をしぼりつつ 木子（まこ）の 松山 波騒さじとは」

これは、清原元輔（図1-1）の歌です。「小倉百人一首」で「存じの方も多い」といいます。三十六歌仙の一人で、清少納言の父でもありました。天延二年（九七四年）、十六歳で備前守として、さらに寛和二年（九八六年）七十九歳の高師（肥後守）として任地に赴き、その地で永祚（えいそ）二年（九〇〇年）六月に八十三歳で亡くなっています。

しかし元輔自身が、この歌にある木の松山の近く、東の鎮守府、兼、陸奥国府であった多賀城（現在の宮城県多賀城市西部）に赴任した記録はありません。この歌は、友人の氣持を詠んだものとも言われています。

「お別れするとき互いに涙にぬれた袖をしぼりながら約束したでしょうか。あの木の松山を渡り越えることがあり得ないように、私たちの仲も行く末決して心変わりするようにはならない」と、それなのに……

地震防災技術の伝承・教育に関する検討小委員会

- 設立趣旨
 - ・ これまでに土木学会地震工学委員会で蓄積されてきた防災や災害軽減に関する研究成果やデータをベースとし、防災行政や災害復旧を担う国や地方自治体に保有するデータ提供を促し、それらに対して科学的な解釈を加え、地震防災技術の伝承に寄与する教育教材の作成を目的とする。
 - ・ 地震防災技術は一般の方から研究者や行政の関係者などの専門家まで幅広く伝承・普及させる必要があるが、本小委員会では将来の地震防災にたずさわる専門家の育成に重点を置き、社会基盤系の高専・大学に進学した学生を主対象とする。
 - ・ 教育教材は地震防災技術に関する経験や知識、理論を含み大学での講義教材としても活用できるような構成とし、防災教育と区別する。また、近年教育のハイブリッド化が進んでいるため、自主学習が可能な電子教材とするが、テキストとして残すべき内容については書籍としての発行も計画する。
 - ・ 書籍の発行/地震工学シリーズ002
- 活動期間
2022年10月～2025年9月（令和4年10月～令和7年9月）

8

小委員会の概要

- 委員・顧問
委員長 池田 隆明（長岡技術科学大学）
副委員長 阿部 慶太（日本大学）
幹事長 井上 和真（群馬工業高等専門学校）
副幹事長 芹川由布子（福井工業高等専門学校）
委員 清田 隆（東京大学 生産技術研究所）
小長井一男（東京大学 名誉教授）
佐藤 京（土木研究所 寒地土木研究所）
志賀 正崇（長岡技術科学大学）
渋谷 研一（JR東日本コンサルタンツ）
高瀬 裕也（室蘭工業大学）
高梨 和光（NPO法人環境防災コンシェルジェ）
福永 勇介（港湾空港技術研究所）
松永 昭吾（インフラ・ラボ）
三神 厚（東海大学）
吉見 雅行（産業技術総合研究所 活断層センター）
渡邊 祥庸（鹿島建設）
顧問 高野 良子（福田耕治法律事務所） 計17名

9

2023年度の活動報告

- 1)委員会・WG活動等
 - ・ 委員会：1回：6月14日 オンライン（活動方針に関する審議）
 - ・ 幹事会：5回：オンライン1回、メール4回
 - ・ 能登半島地震WG：被害調査、自治体ヒアリング、打ち合わせ
 - ・ 書籍出版WG：複数回
- 2)小委員会活動補助費決算報告
配分額： 93,600円
執行額： 84,851円
余剰額： 8,749円
支出報告 WG等のための交通費

10

2024年能登半島地震の被害調査



11

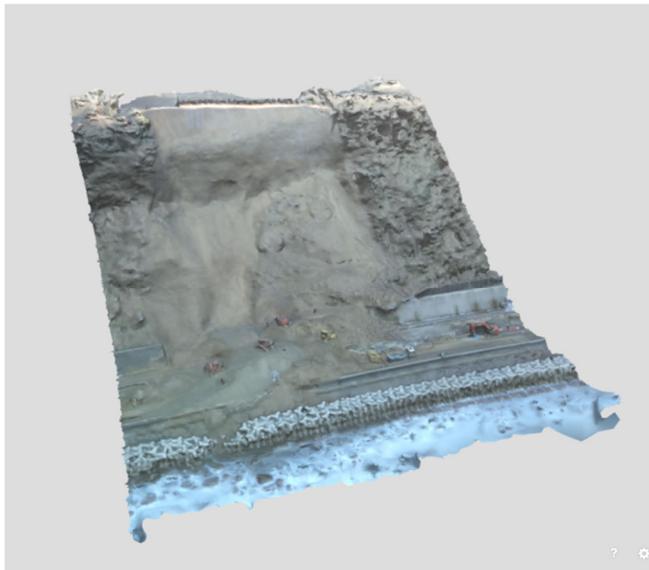
2024年能登半島地震の被害調査



能登半島地震の被害調査



能登半島地震の被害調査



能登半島地震の被害調査



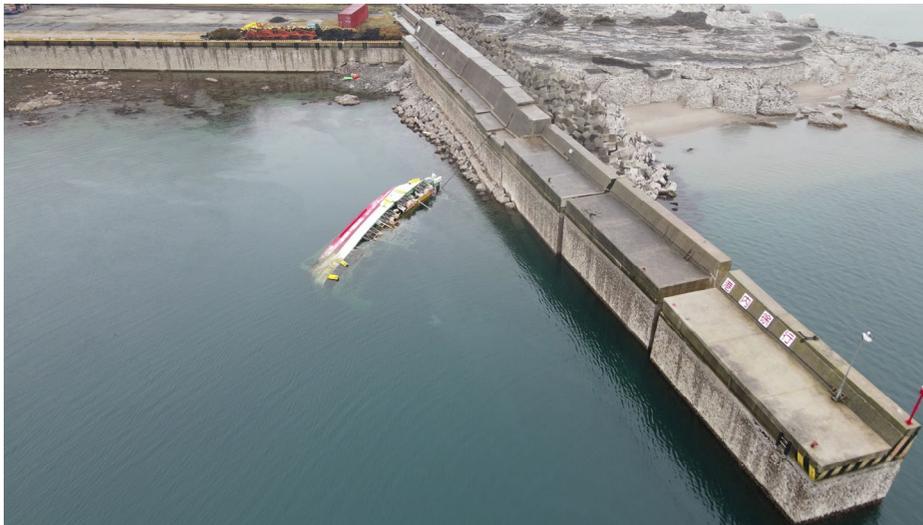
能登半島地震の被害調査



能登半島地震の被害調査



能登半島地震の被害調査



能登半島地震の被害調査



能登半島地震の被害調査



2005年ジャワ島中部地震



2014年長野県北部の地震



2015年ネパール・ゴルカ地震



①地震被害調査に関する知識の伝承

令和6年能登半島地震被害とその調査から学ぶ
～地震防災に向けた発信・蓄積・教育・技術伝承～

日時：5月30日 13時10分～16時50分

場所：土木学会 講堂+オンライン（ウェビナー）

第1部 令和6年能登半島地震の被害調査とその解説

- ・地震・断層・地形 : 吉見 雅行（産業技術総合研究所）
- ・地盤 : 清田 隆（東京大学生産技術研究所）
- ・橋梁 : 松永 昭吾（インフラ・ラボ）
- ・ライフライン : 小野 祐輔（鳥取大学）
- ・リモートセンシングとGIS : 志賀 正崇（長岡技術科学大学）

第2部 特別講演

- ・地震初動調査における液化化被害地域の予測と分析
若松 加寿江（関東学院大学）
- ・2007年と2024年 二つの能登半島地震
- 地震被害調査で得た知見・教訓はどう反映されるのか?-
小長井 一男（国際斜面災害研究機構）

24

2024年度の活動報告

1)委員会・WG活動

- ・委員会：4回程度（オンライン・対面）
- ・幹事会：4回程度（オンライン・対面）
- ・WG：随時

2)活動内容

①講習会

- ・令和6年能登半島地震被害とその調査から学ぶ
～地震防災に向けた発信・蓄積・教育・技術伝承～

②書籍の出版

- ・地盤は悪夢を知っていた－地盤に残る地震痕跡－の続編

③学習用教材（デジタル教材）の作成

- ・「地盤は悪夢を知っていた－地盤に残る地震痕跡－」の教材化
- ・2024年能登半島地震に関する教材作成の検討

25

②書籍の出版



- ・中公新書サイズ（縦書き）
- ・総ページ数：200ページ程度
- ・8～10章程度
一般の方も読めるような内容
歴史・文学的要素を加える
- ・発行（予定）
第1版第1刷：令和7年03月頃
- ・定価（希望）
1,100円程度（税込）
土木学会会員特価
1,000円程度（税・送料込）

26